



Ryukoku University



RYUKOKU
UNIVERSITY

Center Report

龍谷大学 学修支援・教育開発センター 通信

2021-1

「学生による学期末の授業アンケート」実施状況(実施率・回答率)一覧 — 2

FD 開催報告 — 3

FDフォーラム 「データサイエンス・AI教育の展開」

FDサロン 「BYOD (Bring Your Own Device) の活用」

FDワークショップ 「オンデマンドコンテンツの作り方と授業運営」

2021年度自己応募研究プロジェクト中間報告会一覧 — 5

オンライン授業および対面授業に関する学習状況アンケート報告 — 6

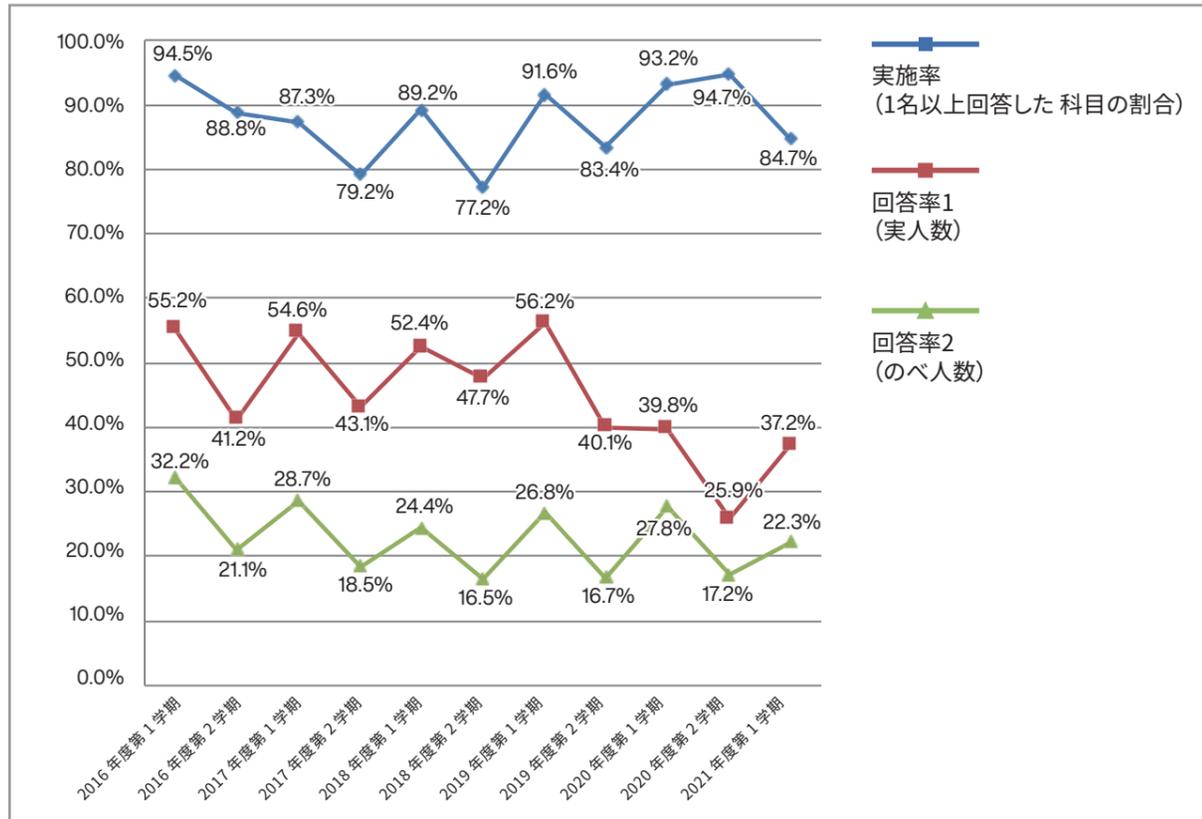
2021年度第1学期(前期)ライティングサポートセンター活動報告 — 9

ラーニングコモンズからのお知らせ — 10

2021年度新入生対象履修相談ブース報告 — 10

新着図書紹介 — 11

「学生による学期末の授業アンケート」実施状況(実施率・回答率)一覧



- 実施率：回答科目(1名以上の回答があった科目)数÷対象科目数×100
- 回答率1(実人数回答率)：
実回答者数÷実受講登録者数×100
(実回答者数)1学生が1以上の科目を回答→1とカウント
(実受講登録者数)1学生が複数の対象科目を有する→1とカウント
- 回答率2【延べ人数回答率】：回答者数÷受講登録者数×100



FD開催報告

FDフォーラム
「データサイエンス・AI教育の展開」
2021年12月29日(木)開催

龍谷大学FDフォーラムは、毎年度、高等教育政策の動向や本学における教育改革状況等を踏まえながら、テーマを設定して開催しています。17回目を迎える今回は、「データサイエンス・AI教育の展開」をテーマに開催いたしました。

近年、社会の変化、特にSociety5.0に向けて、データサイエンスに関する知識・技能が社会人として必要とされるようになり、すでに専門教育としてのデータサイエンス教育を行う学部を設置し、データサイエンティストの育成に取り組まれている大学があります。また、従来の学部教育において、データサイエンスを教育プログラムの中に取り入れられている大学もあります。

先行してデータサイエンス教育を展開しておられる武蔵野大学データサイエンス学部の上林先生、兵庫県立大学社会情報科学部の笹嶋先生、関西学院大学経営戦略研究科の羽室先生をお招きして、成果や課題等を参加者の皆様と共有し、大学教育としてどのようなデータサイエンス教育を目指していくのか、具体的な教育プログラム(到達目標、設置科目とその内容)について、情報交換を行い、議論しました。

武蔵野大学データサイエンス学部の上林先生からは、データサイエンス学部の教育の例として、新入生は、1年間で大学4年間の圧縮体験をすることをご紹介いただきました。自分の漠然としていた関心事を、研究テーマ化して、夢中で取り組み、成果をまとめ、企業の方々に発表して、評価してもらい、外部のコンペにも参加していることも紹介いただきました。

兵庫県立大学社会情報科学部の笹嶋先生からは、あるスキル(知識)を身に着けたらこういう活躍ができる。といったように、職業のイメージを具体的にできることなど、実践的教育を実施するため、企業と連携する理由が紹介されました。また、スーパーでのPBL演習の例が紹介され、学生の予測する課題と現場の課題の違いがあげられ、実データを活用した教育の課題も紹介いただきました。

関西学院大学経営戦略研究科の羽室先生からは、データサイエンス教育に対する基本的な考え方が紹介され、現場から見たデータを分析することが求められ、情報側の人間と現場の人間がお互いに歩み寄ること、もしくは、それら二者を結びつけるブリッジ人材(データサイエンティスト)の育成が急務であることをご説明いただきました。

学内外から多くのお申込みをいただき、当日は129名が参加されました。実際にデータサイエンス科目を担当されている方も参加され、講師に対しての質問も寄せられ、活発な意見交換がなされました。終了後に実施したアンケートでは「データサイエンス教育を、どう具体的に進めておられるのか、実際の学生の動きを含めて知ることができました。」「現場との連携が重要であることが良く認識できました。」といった感想が寄せられました。引き続き、データサイエンス・AI教育の展開について検討を進めていきます。

データサイエンス・AI教育の展開
2021年度 龍谷大学FDフォーラム

Society5.0実現に向けて、データサイエンスに関する知識・技能が社会人として必要とされるようになり、社会人に大学に引継ぎ、文理を問わずデータサイエンス教育への関与が求められています。2019年度に開催したFDフォーラムにおいては、先行してデータサイエンス教育に取り組まれた武蔵野大学、兵庫県立大学等に事例をご紹介いただきました。

今回、関西学院大学様の事例に加え、あらためてデータサイエンス教育に関するFDを公開し、上記2大学様の進捗や、今後、大学としてデータサイエンス教育をどのように展開するべきなのか、具体的な教育プログラム、プログラムを進める上での課題、改善への取組に関する活発な議論を行います。その後、3名の講師によるパネルディスカッションを行い、参加者が共に考える機会にしたいと考えております。

講師
上林 憲行 氏
武蔵野大学データサイエンス学部データサイエンス学科教授
笹嶋 宗彦 氏
兵庫県立大学社会情報科学部 社会情報科学科准教授
羽室 行信 氏
関西学院大学経営戦略研究科 経営戦略専攻 准教授

zoom開催
参加費無料
2021年12月9日(木)
15:30-17:30
zoom open 15:15-

お申し込み先：龍谷大学学務支援・教育開発センター(学生会館前) 電話076-645-2163 e-mail:dche@ad.ryukoku.ac.jp



武蔵野大学 上林先生



兵庫県立大学 笹嶋先生



関西学院大学 羽室先生

FDサロン 「BYOD(Bring Your Own Device)の活用」 2021年10月8日(木)開催

BYOD(Bring Your Own Device)の活用について他大学の事例を知ることがを目的として、FDサロン「BYODの活用」を開催しました。

本学においても先端理工学部や農学部など一部の学部でBYODが導入されていますが、全学的にBYODを導入されている3大学から事例をご紹介します。

関西大学からは、学長補佐の岡田 忠克先生にご登壇いただき、2018年度より自律的に学ぶ力を育成するために、ノートパソコン等を持参して学ぶBYOD(Bring Your Own Device)を推奨されており、教育推進部長(副学長)の下に、ICT活用教育推進プロジェクトを設置して推進されたことを紹介いただきました。

関西大学 岡田先生 ▶



畿央大学からは、教育学習基盤センター長・次世代教育センター長の福森 貢先生にご登壇いただきました。畿央大学様では、学生が端末を購入するのではなく、端末を貸与するCOPE(Corporate-Owned, Personally Enabled)方式を採用されています。その理由として、統一したサポートが実施できることや、保護者の負担が少なくすむことをあげられました。また、情報処理室を廃止し、その予算をBYODに充てたことをご紹介いただきました。

畿央大学 福森先生 ▶



学校法人追手門学院からは、図書・情報メディア部 情報メディア課の元木 伸宏様にご登壇いただきました。教職員の中心メンバーが想定したBYODを体験した事例や、入学時にチェックリストを配布することで、新入生が容易に推奨端末を購入できる状況にしたことをご紹介いただきました。

追手門学院 元木様 ▶



これらの大学ではBYODの導入によって、大学としてサポートがかなり必要な反面、大学のあらゆるところで学生がPCを利用した学習をするようになりました。自ら調べるといった姿勢を浸透させたり、Officeの基本的な使い方をレポート課題として各自で学習してもらうなど、運用面での事例も紹介いただきました。

コロナ禍においてオンライン授業が普及し、学生が自身のパソコン等を活用して学習する機会が増えています。このように学生を取り巻く環境が変化中、今後も引き続き、全学的なBYODの導入についての検討を進めていきます。

FDワークショップ 「オンデマンドコンテンツの作り方と授業運営」 2021年10月29日(金)開催

ICT教育が推進される社会動向や、アフターコロナを見据えた新たな教育手法のひとつにオンライン授業があります。なかでも動画コンテンツが重要となるオンデマンド授業についてコンテンツの作り方や授業運営についての理解を深めるため、FDワークショップ「オンデマンドコンテンツの作り方と授業運営」をオンライン(ZOOM)開催しました。

参加者にはオンライン会議参加用の端末(PC・タブレット・スマートフォン)と実習用のPC(Windows)を用意いただき、講師の説明とあわせて、実際にコンテンツの作成も体験いただきました。

オンデマンドコンテンツを活用した授業運営を実施するにあたり、今後も引き続き支援を行っていきます。



2021年度自己応募研究プロジェクト 中間報告会 一覧

学修支援・教育開発センターでは、学内のグループ又は個人に対して教育全般・授業・教材等の研究開発を奨励し、公開に関する支援を行うことを目的とした自己応募研究プロジェクト事業を実施(2021年度は5件の研究プロジェクトを採択・遂行)しています。

中間報告会は、それぞれの研究プロジェクトの遂行状況を全学に公開し、その研究成果を共有することを目的としています。

代表者名	プロジェクトテーマ	日時	実施形態	中間報告テーマ	中間報告概要
伊東 秀章 (文学部)	システムズアプローチによるセラピーの映像を用いた教育手法の開発	12月17日(金) 学修支援・教育開発センター 会議終了後	オンライン (Teams 開催)	システムズアプローチによるセラピーの映像を用いた模擬講義の成果	プロジェクト「システムズアプローチによるセラピーの映像を用いた教育手法の開発」の中間報告を行う。2021年6月から7月に行った計3回の模擬講義のデザイン作成プロセスと実施プロセス、そして講義参加学生への自由記述式質問紙及びインタビュー調査の結果から、実践場面動画を視聴することによる学生への教育公開を検討する。
小正 浩徳 (文学部)	中途退学の予防に向けた大学適応感 質問紙の活用	12月、1月頃			
神谷 祐介 (経済学部)	SDGs×アクティブ・ラーニング型授業 の実践と効果検証	12月23日(木) 12:40-13:20	対面開催 第1共同研究室 (6号館2階)	SDGs×アクティブ・ラーニング型授業 の実践と効果検証	本研究を進めるSDGs×アクティブ・ラーニング型授業のプログラム(教材・カリキュラムなど)を紹介した上で、龍谷大学経済学部での授業・演習科目におけるアクションリサーチ(実践と評価)の結果について報告する。
Jonah Salza (国際学部)	オンライン・オンデマンドビデオの字幕・タイトル・作成	12月下旬～ 2022年1月 から公開予定	オンデマンド 授業をTeams 内およびML にて周知	映像の作成から ウェブサイトへ 紹介するへ変更	コロナ前から演劇・伝統芸能を担当しています。However, during Covid-19 pandemic, I could not ask students to visit performances at noh or bunraku theatres as usual. Instead, I had to use a mixture of videos digitized with titles and written materials to explain performance aspects of traditional theatre. With FD funds, I am creating a website that will link to further information available on National Theatre, Waseda Enpaku, Japan Foundation, and other public sites. Many of these were newly created for educational purposes during the pandemic, and therefore hard to locate and confirm as worthwhile. The use of my private digitized videos, commercial DVDs, and YouTube, etc... links will be displayed in my regular, online class in Traditional Theatre. 伝統芸能論：映像の作成からウェブサイトを紹介するへ変更
生駒 幸子 (短期大学部)	保育における言葉の指導法の学修に関する授業改善・教材開発	12月、1月頃	公開授業	保育における言葉の指導法の学修に関する授業改善・教材開発	2021年度前期開始時は対面授業であったが感染拡大状況に鑑み学期途中からオンライン授業、そして再び対面授業へと授業形態を変更することとなった。授業形態の変更に伴い、学修内容や課題を精選しつつ実施した授業の試行錯誤から得た研究成果と課題について報告を行う。

オンライン授業および対面授業に関する学習状況アンケート

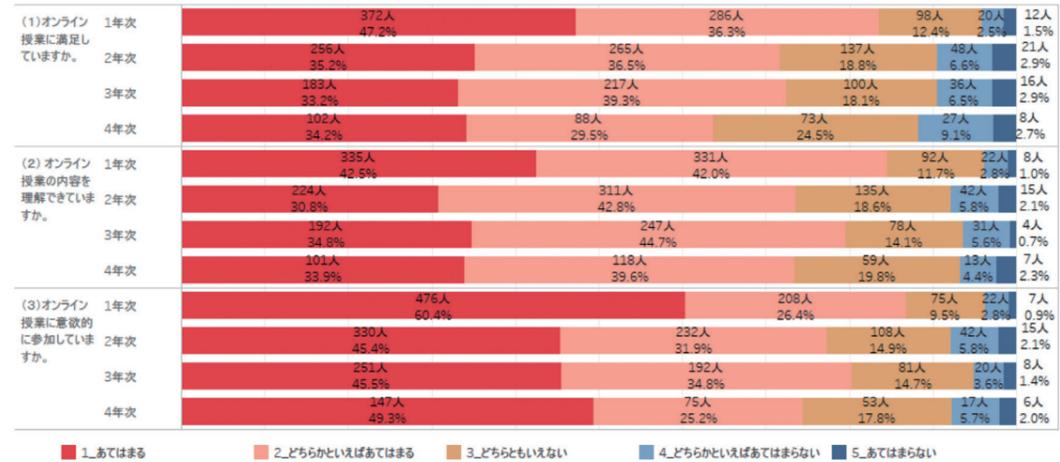
コロナ禍の学生の実態把握や教育改善を目的として、オンライン授業及び対面授業に関する学生の理解度や満足度を測定するとともに、それぞれの教育効果について検討するために2021年10月7日(木)～10月20日(水)にポータルサイト上でオンライン授業および対面授業に関する

I. オンライン授業について

I. オンライン授業について(設問1-3)_全体割合



I. オンライン授業について(設問1-3)_年次比較

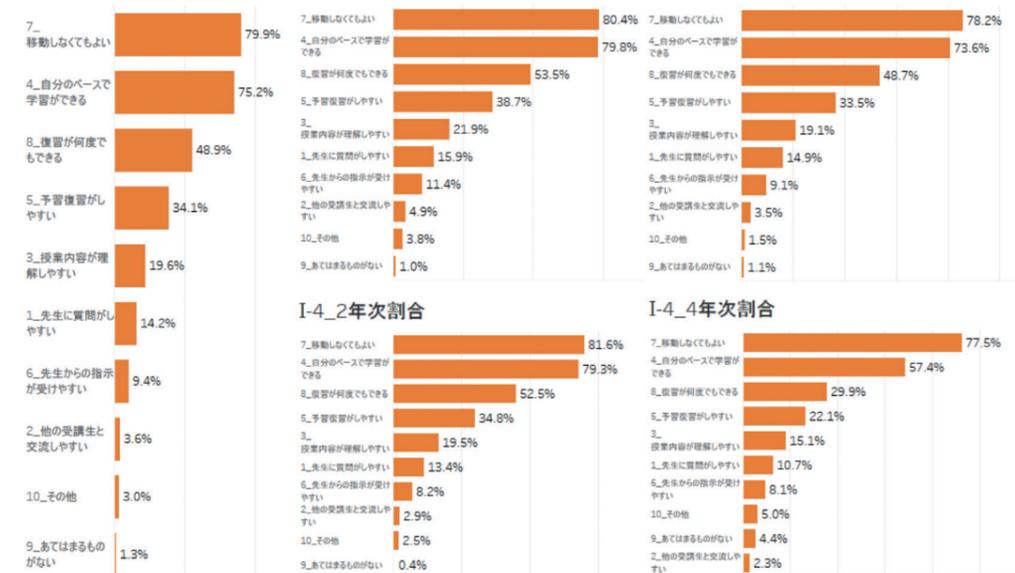


n:2,364人

回答者のうち、7割以上の学生がオンライン授業に満足しており、8割以上の学生がオンライン授業に意欲的に参加しています。また、どちらも1年次生は特に割合が高くなっています。

今年度(2021年度)のオンライン授業を受講して「よかった」こと「困っている」こと

「よかった」こと



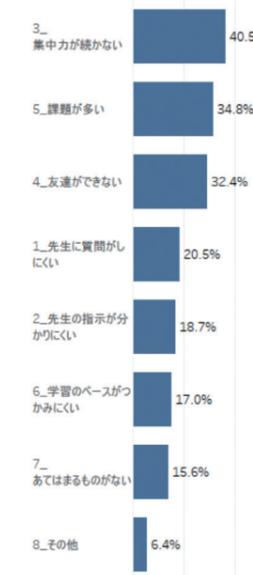
オンライン授業の「よかった」ことは、①「移動しなくてもよい(79.9%)」、②「自分のペースで学習ができる(75.2%)」、③「復習が何度でもできる(48.9%)」の順になっています。また、全ての年次で「移動しなくてもよい」、「自分のペースで学習ができる」の割合が高くなっています。

学習状況アンケートを実施し、2,364人からの回答がありました。

オンライン授業の利点だけでなく、対面授業の価値を相対化し、ポストコロナ・ウィズコロナを見据えた授業改善やカリキュラムの検討に活用していきます。

「困っている」こと

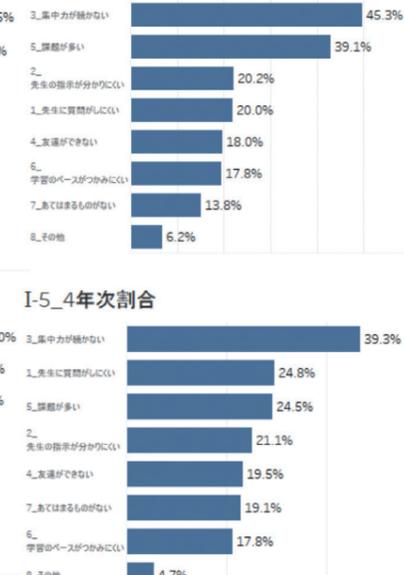
I-5_全体割合



I-5_1年次割合



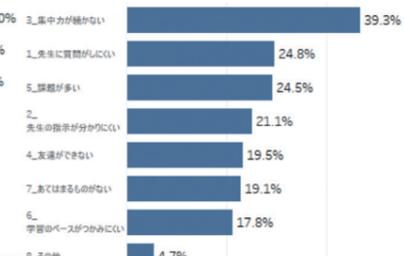
I-5_3年次割合



I-5_2年次割合



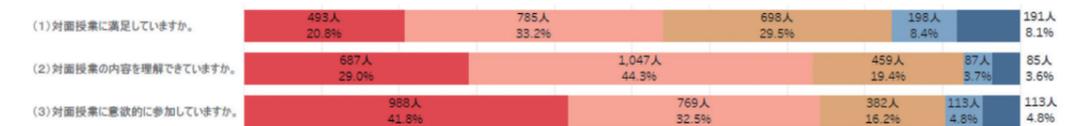
I-5_4年次割合



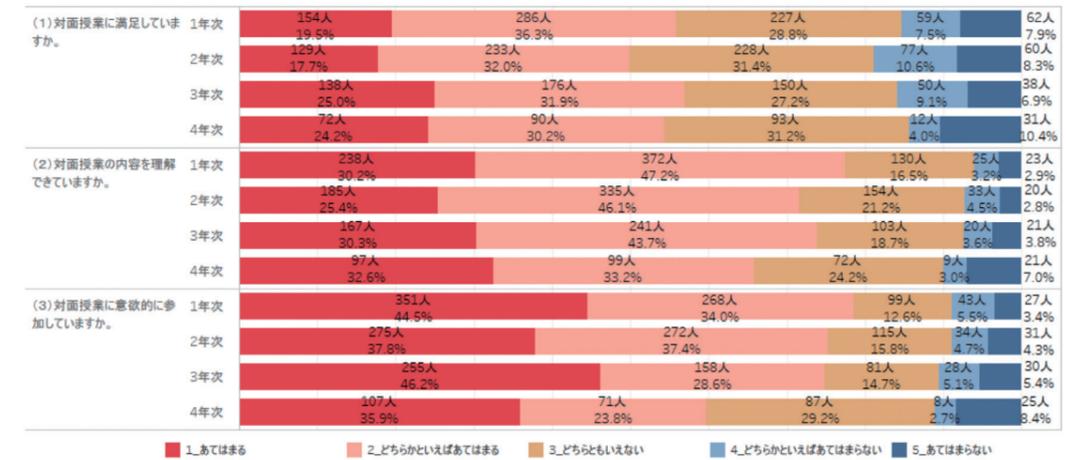
オンライン授業で「困っている」ことは、①「集中力が続かない(40.5%)」、②「課題が多い(34.8%)」、③「友達ができない(32.4%)」の順になっています。なお、1年次・2年次は、①「友達ができない」の割合が最も高く、次いで②「集中力が続かない」の割合が高くなっています。

II. 対面授業について

II. 対面授業について(設問1-3)_全体割合



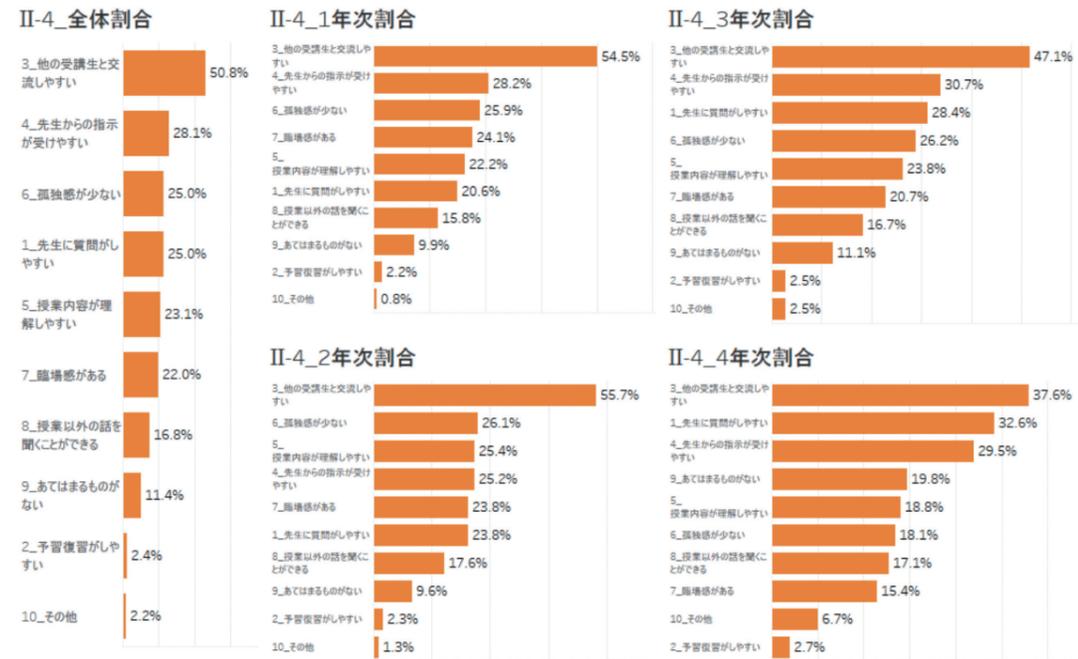
II. 対面授業について(設問1-3)_学年比較



「対面授業に満足している」割合(54%)は、「オンライン授業に満足している」割合(74.8%)より低くなっています。また、「対面授業に意欲的に参加している」割合(74.3%)は、「オンライン授業に意欲的に参加している」割合(80.3%)よりやや低くなっています。

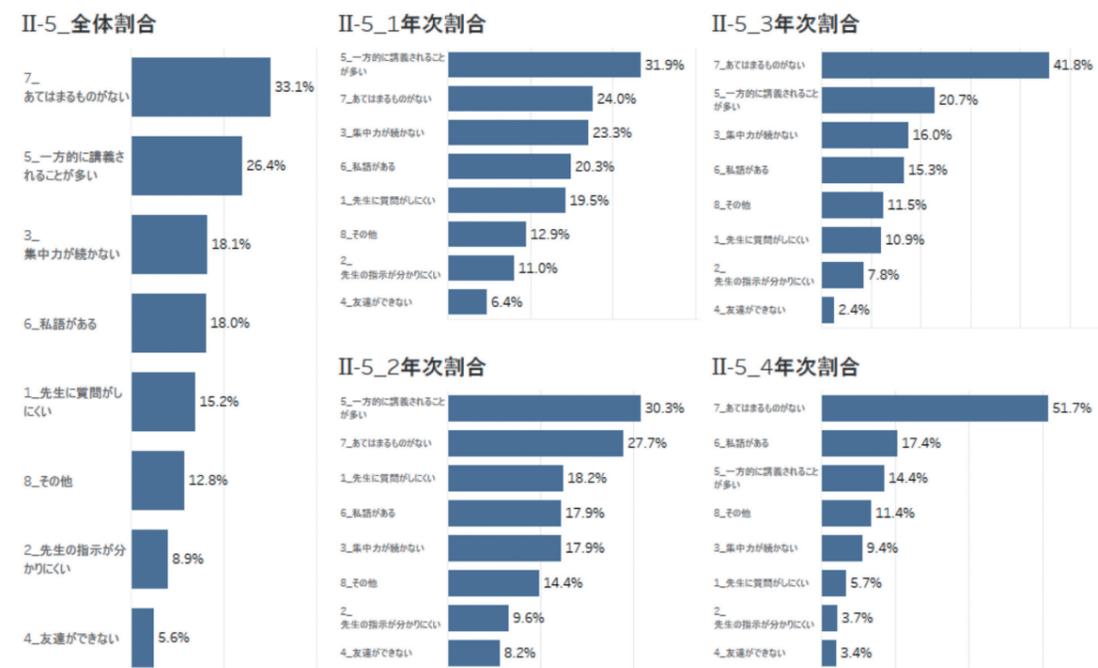
今年度(2021年度)の対面授業を受講して「よかった」こと「困っている」こと

「よかった」こと



対面授業の「よかった」ことは、「他の受講生と交流しやすい(50.8%)」が最も高く顕著になっています。全ての年次において、「他の受講生と交流しやすい」の回答割合が最も高くなっています。

「困っている」こと



対面授業で「困っている」ことは、①「あてはまるものがない(33.1%)」、②「一方的に講義されることが多い(26.4%)」、③「集中力が続かない(18.1%)」の順になっています。なお、1年次・2年次は、「一方的に講義されることが多い」の割合が最も高くなっており、3年次・4年次は、「あてはまるものがない」の割合が高くなっています。

ライティングサポートセンターでは、「論理的に考える能力を養い、それにとまなう表現の技術を高める。」「読み書き能力の向上にとどまらず、分析力を高める。」ことを理念に本学学生のレポートや卒業論文などのライティングにまつわる相談に応じ、それらを支援しています。2021年度第1学期(前期)は以下のとおり、支援を実施しました。

〈相談対応事業〉

新型コロナウイルス感染症対策のため、完全予約制でオンラインによる相談対応を実施しました。

1. 相談実績

- 開室日数：71日(昨年度：52日)
授業実施期間中および定期試験期間中に開室
- 相談者数：217人(のべ)(うち初めての利用者数：161人) *相談対応時間60分で換算(昨年度：106人)
- 1日平均利用者数：3.0人(昨年度：2.0人) *小数第2位四捨五入、以下同じ
- 相談者の内訳

①学部/学年別

学部	1年生	2年生	3年生	4年生以上	修士	博士	学部別合計	
							人数	割合(%)
文学部	9	9	8	12	0	0	38	17.5
経済学部	0	1	1	1	0	0	3	1.4
経営学部	6	1	0	0	0	0	7	3.2
法学部	8	1	2	0	0	0	11	5.1
国際学部	105	8	2	0	0	0	115	53.0
先端理工学部	1	1	—	—	—	—	2	0.9
理工学部	—	—	2	2	0	0	4	1.8
社会学部	4	6	3	7	6	0	26	12.0
農学部	2	1	6	0	1	0	10	4.6
短期大学部	—	—	—	—	—	—	—	—
留学生別科	1	0	0	0	—	—	1	0.5
学年	人数	136	28	24	22	7	217	100
	割合(%)	62.7	12.9	11.1	10.1	3.2	100	100

(5) 相談内容の内訳

- ①相談内容の種類 *1件の相談につき複数項目に該当する場合を含み、それを項目ごとに分類した結果となっています。
*割合は、上述(2)の相談者数に対する値としています。

分類項目	件数	割合(%)
卒論・卒研	18	8.3
レポート	117	53.9
プレゼン(ゼミ発表・レジュメ)	25	11.5
ゼミの志望理由書	1	0.5
修士論文	6	2.8
研究計画書	1	0.5
就職関係の文書	2	0.9
留学関係の文書	3	1.4
奨学金関係の文書	2	0.9
その他	3	1.4

*「その他」は、学会の要旨とポスター、学生サポーターの志望理由書(図書館)、本の内容をまとめるレジュメ。

〈相談対応以外の事業〉

2. オンライン講習会

- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| (1) レポートのタイプを知る | (2) レポート(論証型)の実際を知る |
| ・実施日：5月10日(月)12:40~13:20 | ・実施日：5月14日(金) |
| ・説明者：チューター | ・説明者：チューター |
| ・予約者：77人 | ・予約者：82人 |
| ・参加者：59人(センター関係者9人を含む) | ・参加者：55人(センター関係者8人含む) |

3. 出張講習

対面での実施とし、緊急事態宣言およびまん延防止等重点措置が出ている場合は、実施しないことを基本としました。出張講習は以下のテーマで実施しています。

①レポートにおけるテーマの絞り方	②レポートの作り方A—構成を知ろう
③レポートの作り方B—手順を知ろう	④レポートの作り方C—引用の仕方・注と参考文献の書き方

実施実施は以下の通りです。

教員名	学部	科目名	実施日	曜日時	テーマ	備考
數田有紀子	経済	入門演習	6月16日	水・3	レポートの作り方C—引用の仕方・注と参考文献の書き方	録画データ提供
辻田素子	経済	入門演習	6月23日	水・3	レポートにおけるテーマの絞り方	録画データ提供
若山琢磨	経済	入門演習	6月30日	水・3	レポートにおけるテーマの絞り方	録画データ提供
滋野正道	経済	入門演習	7月7日	水・3	レポートの作り方A—構成を知ろう	録画データ提供

*敬称略

4. 図書館との連携(おすすめ本)

- | | |
|-----------|---|
| (1) 瀬田図書館 | 期間：6月1日~7月31日 |
| | テーマ：〈前半〉厳選！レポート・卒論論文の取り組み方お役立ち本
〈後半〉大学院生のチューターが学生時代に読んでおけばよかったと思う本 |
| (2) 深草図書館 | 期間：6月21日~8月4日 |
| | テーマ：厳選！レポート・卒論論文の取り組み方お役立ち本 |

ラーニングcommonsからのお知らせ

ラーニングcommonsは、「新型コロナウイルス感染防止のための龍谷大学行動指針」における活動制限レベルに応じて、運用方法を変更しています。活動制限レベルが「2」以上の場合は、アクティブラーニングのスペースではなく自習室としての運用を行っていますが、2021年11月8日からの「1」引き下げられた事に伴い、個人利用のスペース、グループ利用のスペースを確保しました。

換気の徹底、SD(ソーシャルディスタンス)を確保するための座席数の削減、飛沫防止パネルを設置しています。感染拡大防止策を実施し、引き続き、安全に利用していただける空間の提供を行っていきます。

新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン(ラーニングcommons)
<https://www.ryukoku.ac.jp/learningcommons/guideline.html>



ライティングサポートセンター
対面対応開始



活動制限レベル1における
個人利用スペース



活動制限レベル1における
グループ利用スペース

新入生対象履修相談ブース(十学部合同学生会主催)

2021年度新入生対象履修相談ブース

十学部合同学生会では、毎年、新入生のオリエンテーション期間中に、深草・瀬田キャンパスにおいて履修相談ブースを設置し、新入生の履修手続きや講義に関する不安・疑問等に対応しています。

今年度は、深草キャンパス和顔館学生チューデントcommons(4/2-4/4)、瀬田キャンパス智光館学生チューデントcommons(4/3-4/4)において開催しました。入学して間もない新入生たちにとって、授業を選び、履修登録することは分からないことが多く、先輩学生に気軽に相談できる履修相談ブースは大人気でした。



履修相談ブースちらし
(深草)



十学部合同学生会とは

十学部合同学生会は学友会選挙で選出された代議員で構成する学友会組織の1つで、学生の正課環境の改善・向上を目指して活動しています。学修支援・教育開発センターと連携を図り、学生・教員・職員が一体となって学びについて考え、学生の視点でFD活動にも積極的に取り組んでいます。

新着図書紹介

教学マネジメントと内部質保証の実質化



出版年月: 2021年3月
 編著: 永田泰介/山崎光悦
 発行所: 東信堂
 価格: 3,520円(税込)
 ページ数: 332p
 大きさ: A5判
 ISBN: 9784798916989

大学の自律性に根差した質保証のための具体的提言! 2000年代以降、大学・学部の新規設置審査が緩和されたことにより、多くの新規大学・学部が認可された。その一方で、ユニバーサル化が進む高等教育の質をいかに保証するかが目下の課題となっている。本書は、全4部16章から質保証をめぐる全体像の把握および国内外事例との比較検討を通じ、大学内部で自律的に進められる自己点検・評価を基幹とした質保証システムの再構築に向けた具体的提言を行う。わが国の教育・学修の評価方法に再考を促した、教職員必読の一冊!

2020年以降の高等教育政策を考える グランドデザイン答申を受けて



出版年月: 2020年9月
 編著: 大槻達也/小林雅之/
 小松親次郎
 発行所: 論創社
 価格: 3,960円(税込)
 ページ数: 360p
 大きさ: A5判
 ISBN: 9784846019662

変貌する大学のゆくえを問う! 斯界のエキスパートによる貴重な論集。中教審「グランドデザイン答申」を受けて開催された高等教育政策シンポジウム。その成果を発展させ、当日の登壇者に幅広い論客を加えた豪華執筆陣による大学関係者必携の書。

教養としてのデータサイエンス



出版年月: 2021年6月
 編著: 北川源四郎/竹村彰通
 発行所: 講談社
 価格: 1,980円(税込)
 ページ数: 229p
 大きさ: A5判
 ISBN: 9784065238097

「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム」のうち「導入」基礎「心得」に完全準拠した公式テキスト! カラーで見やすく練習問題も充実。大学生はもちろんビジネスパーソンも、いますぐ知っておくべき教養がここにある!

Tableauユーザーのための伝わる!わかる! データ分析×ビジュアル表現トレーニング ～演習で身につく実践的即戦力スキル



出版年月: 2021年10月
 編著: 松島七衣
 発行所: 翔泳社
 価格: 2,640円(税込)
 ページ数: 181p
 大きさ: B5判
 ISBN: 9784798169910

意思決定を促すビジュアルの作成方法と、有益な数値を導き出すテクニックをマスター、ビジネスの現場で役立つ73の厳選問題を解いて、分析力を上げよう!

リフレクションを可視化するティーチング・ポート フォリオ・チャート作成講座 ~Web解説動画付



出版年月: 2021年3月
 編著: 栗田佳代子/吉田聖
 発行所: 医学書院
 価格: 2,860円(税込)
 ページ数: 112p
 大きさ: B5判
 ISBN: 9784260044776

教育者としての自分を振り返り、自分のあり方を自分で見出すためのツール、ティーチング・ポートフォリオ・チャートの作成方法や活用方法を具体的に紹介する。ティーチング・ポートフォリオ・チャートは、1枚のワークシートに、「責任」「改善・努力」「成果・評価」「方法」「方針」「理念」「目標」といった項目を、行ってきた教育についてリフレクションしながら作成するものです。作成過程や出来上がったものを他者と共有することで、自らの教育に対する姿勢や行動の原理が明らかになります。本書を通じて、その具体的な作成方法とチャートを通して成長を得る方法を身につけましょう。

教育現場と研究者のための著作権ガイド



出版年月: 2021年3月
 編著: 上野達弘
 発行所: 有斐閣
 価格: 2,420円(税込)
 ページ数: 246p
 大きさ: B5判
 ISBN: 9784641243446

教材づくり、オンライン授業配信、行事や入試、論稿の作成……教職員と研究者があらゆる場面で悩まれる著作権の問題を、111のQに付け簡潔に解説。適切な対応と考え方が一目で分かり、応用も利く。法の専門家が徹底的に実務に即して回答した最新・信頼の必携書。

はじめてのAIリテラシー



出版年月: 2021年7月
 編著: 岡島裕史/吉田雅裕
 発行所: 技術評論社
 価格: 1,848円(税込)
 ページ数: 240p
 大きさ: B5判
 ISBN: 9784297120382

政府は「AI戦略2019」の中で、リテラシー教育として文専を問わず、全ての大学・高専生約50万人を対象に、初級レベルの数理・データサイエンス・AIを課程にて習得する方針を打ち出しました。これを踏まえ、各大学・高専で参照可能な「モデルカリキュラム」の検討と策定が進められています。本書はこのモデルカリキュラムのうち、基礎的な範囲に対応した教科書です。AIリテラシーの基礎を薄く広く扱います。文科省の認定制度に準拠し、半期15回の講義で進められるよう工夫されています。これから導入を考えているすべての大学・高専が対象です。

「問う力」を育てる理論と実践 問い・質問・発問の活用の仕方を探る



出版年月: 2021年3月
 編著: 小山義徳/道田泰司
 発行所: ひつじ書房
 価格: 3,080円(税込)
 ページ数: 340p
 大きさ: A5判
 ISBN: 9784823410352

学習指導要領の改訂により、「自ら問いを立て、自律的に考えることのできる人材の育成」が求められている。本書は、学習者の「問い」や、教師の「発問」を基に展開する実践の紹介と背景理論の解説を行い、教育現場で教える教員の方はもちろん、学習者の「問い」や「質問」の研究に携わる大学院生や研究者も深く学べる内容となっている。

ライティングの高大接続 高校・大学で「書くこと」を教える人たちに



出版年月: 2017年6月
 編著: 渡辺哲司/島田康行
 発行所: ひつじ書房
 価格: 2,200円(税込)
 ページ数: 203p
 大きさ: A5判
 ISBN: 9784894768758

一人の学生にとって一連・一体のものであるべきライティング教育が、高校と大学の双方で、独立的かつ自己完結的に、断絶や重複を露呈しつつ行われている。そこで本書では、高・大の間でつながりの悪いところはどこか、なぜそうなっているのか、どうつなげばよいかを、教師の視点から考えてみる。高卒者の半数以上が大学生となる現代日本のライティング教育の内容を、高校から大学へと続く一体のものとして、単なるハウツーを超えて論じる空前の試み。

図書貸し出しのご案内

学修支援・教育開発センターでは、高等教育やFDに関する図書を購し、教職員へ貸し出しを行っておりますので、是非ご利用ください。専任教職員につきましては、学内便での貸し出しも可能です。1.お名前、2.ご所属、3.教員/職員の別、4.貸出希望の書名、5.著者名を明記の上、dche@ad.ryukoku.ac.jp までお申込ください。詳細は、https://fd.ryukoku.ac.jp/for_teacher2/ をご参照ください。



2021年12月発行
編集・発行 龍谷大学 学修支援教育開発センター

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
075-645-2163 <https://fd.ryukoku.ac.jp/>